



■財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961  
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

- 理事長声明
- 風通し
- 被爆者の話が絵本と紙芝居に
- 長崎平和推進協会事業報告書
- 平和案内人～経過情報～
- 7月以降の講座予定
- 記念館だより



この空は、世界とつながっている。

# 伊藤前長崎市長銃撃事件に対する 理事長声明

本年4月17日、長崎市民の先頭に立って核兵器廃絶を訴え続けてきた伊藤一長前長崎市長が凶弾に倒れ、帰らぬ人となった。

伊藤前市長は長年にわたって長崎平和推進協会の会長を務め、長崎を最後の被爆地にしなければならないとの熱い思いで、国内外において核兵器廃絶運動を続けて来られた。平和の発信地長崎で、その中心人物を葬り去る理不尽な蛮行は絶対に許すことができない。

平和を求める運動、民主主義への重大な挑戦であり、悲しみの歴史をこれ以上繰り返してはならない。

世界の恒久平和、核兵器廃絶を求め、小異を残しながらも大同につく幅広い市民が結集した当協会は、伊藤前市長のご冥福を心からお祈りするとともに、今回の卑劣な行為にけしてひるむことなく、生命の尊さ、平和の大切さを共有できる社会の実現へ向け、新たな決意で取り組むことをここに誓います。

2007年(平成19年)6月

財団法人 長崎平和推進協会

理事長 横瀬 昭幸



※ みなさまご存知のとおり、さる4月17日伊藤一長前長崎市長(当時)が暴力団幹部の凶弾を浴びて命を落とすという衝撃的な事件が起こりました。

当協会としてもこの事件についての見解を示すべきと考え、運営会議、評議員会及び理事会の協議を経て、上記のとおり理事長声明を表明するものです。



## 原爆死没者名簿

# 風通し

5月30日、前日まで、刻々と変わる天気予報を気にしていたのがうそのような五月晴れとなり、開け放たれた交流ラウンジにさわやかな風が吹

き込むなか、原爆死没者名簿の風通しが国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館において行われました。

追悼空間の原爆死没者名簿棚に納められている名簿141冊（身元不明の死没者のための白紙の名簿1冊を含む）が取り出され、白布を敷かれた交流ラウンジに整然と並べられました。

原爆投下時刻の午前11時2分、黙祷を行った後、市原爆被爆対策部職員が風通しの作業を開始、来館者の

方が手を合わせる中、白い手袋をはめた職員の手により1頁ずつゆっくとめくられ、久しぶりに外の空気に触れた死没者名簿は、約1時間の作業終了後、再び名簿棚に納められました。

なお、8月9日の原爆犠牲者慰霊碑平和記念式典において、昨年の8月以降に死亡が確認された死没者名簿も、今回風通しを行った141冊（140、144人）とともに新たに奉安されることになっています。



▲一冊ずついねいに風通し作業が行われました

## 被爆者の話が絵本と紙芝居に

### 長崎市立桜馬場中学三年生が制作

長崎市立桜馬場中学校では、二年前から、長崎原爆の日である八月九日に本協会継承部会員・吉田勝二さんの被爆体験を聞いています。

一昨年の三年生が、吉田さんの話をもとに、絵にして文化祭で発表しました。そして、昨年の三年生が、それを絵本にしようと原画・文章の班に分かれて取り組み、完成させました。

このような子ども達の活動を知った川村豊彦前校長が、絵本「私たちが



▲子どもたちと会話する吉田さん

伝える被爆体験」として、自費で一四〇冊を製本されました。そのうちの

四〇冊が桜馬場中学校に寄贈され、

残りの一〇〇冊を吉田さんや作成に携わった生徒、教職員等に寄贈されました。

絵本はA4判で全三十四ページ。各小学校や福祉施設、図書館などにも贈られる予定です。

また、吉田さんは「元気をもらった」と子ども達の活動に感動し、紙芝居作りを思い立ち、一〇セットを印刷し、桜馬場中学校をはじめ、長崎原爆資料館などに寄贈しました。

子どもたちの目や心で捉えられた被爆者の平和への思いが、絵本や紙芝居として実を結び、これから多くの若者に語り伝えられて行く貴重な資料となっていくことでしょう。

日頃から若い世代に自らの被爆体

験を語り、核兵器の廃絶と世界恒久平和を訴え続ける被爆者の方々にとって、たいへん心強いできごとだと思います。

いま、吉田さんは仲間を募り、子ども達の前で紙芝居を演じるための練習に余念がありません。





# 平成18年度財団法人

## 長崎平和推進協会事業報告

### I 一般事業

核兵器廃絶と世界恒久平和への実現に寄与し、平和への認識をさらに深めてもらうために、財政基盤の確立と永続性のある事業運営を図りつつ、平成18年度は次の事業を実施しました。

#### (1) 発刊事業

##### ① 会報「へいわ」の発行

協会の事業活動をはじめ、平和に関する動きをとらえ、会員に情報を提供するとともに会員相互のコミュニケーションを図るため、機関紙を発行しました。

##### ○ 会報「へいわ」

和文 年4回

(19年3月末現在113号)

A4・8ページ

1回当たり 3,000部

##### ② ブックレット「平和のあゆみ」の発行

協会発足当初からの平和意識高揚のための取り組み、活動状況、実施状況等をまとめたブックレット「平和のあゆみ」の発行を行いました。

A4・12ページ

年1回 1,000部

##### ③ 情報BOXの発行

事務局や部会等の動きを周知するため、情報ボックス 和文月1回(月初め)を発行しました。

A4・表裏 1回 170部程

#### (2) 啓発事業

##### ① 被爆体験講話の実施

被爆の実相を伝えるため、修学旅行生や市内の小中学校などに被爆体験講話を実施しました。

(単位：校)

区分	講話	合計
14年度	1,016	1,016(147,671人)
15年度	1,077	1,077(164,254人)
16年度	1,047	1,047(146,225人)
17年度	1,100	1,100(148,742人)
18年度	986	986(133,761人)

(単位：校)

区分	講話	合計
小学校	385	385(42,015人)
中学校	341	341(46,165人)
高校	205	205(40,893人)
一般	55	55(4,688人)
計	986	986(133,761人)



▲ピースネットの様子

##### ② ピースネットの実施

平成16年度から、遠隔地に存する小・中学校に対し、テレビ会議システムによる平和学習を実施しました。18年度実績は13件の学校に実施しました。

##### ③ 出前講座の開催

より多くの人たちに被爆の実相や被爆者の体験等を知ってもらい、平和に対する意識の高揚を図るため、各地へ出向いて講座を開催しています。18年度は3件実施しました。

##### ④ 講演会等の開催

18年度は、広島で被爆した父親を幼少時に亡くし、佐賀の祖母宅で少年時代を送った漫才師の島田洋七氏を招き、「元氣・勇気・やる気」と題した講演を行いました。



▲島田洋七さんの講演会

##### ⑤ 国連軍縮週間行事

国連の創立記念日である10月24日から1週間が軍縮の世論を高めるための「国連軍縮週間」と定められ、平和推進協会では、昭和58年から

ら市民の平和意識の高揚と平和問題への認識を高めるために「市民のつどい」と題して各種の催しを行います。

開催日時：10月28日(土)

◎屋内行事(原爆資料館ホール)

・NAGASAKI・1945

・アンジェラスの鐘を上映しました。

◎屋外行事(原爆資料館前階段下広場)

・戦時食、紙風船、折鶴、チャリティー、

原爆写真パネル展等のコーナーを設置しました。

##### ⑥ 県外原爆展の開催

原爆の問題について、触れる機会があまりない県外の方々に被爆者の体験講話を交え、被爆の実相や核兵器の恐ろしさを知ってもらい、長崎市民の核兵器廃絶への願いを伝えるため、県外の都市、長崎市及び当協会の共催で開催しました。

〈平成18年度開催都市〉

長岡市 開催時期

7月1日(土)～7月17日(月)

なごか市民センター

岐阜市 開催時期

7月22日(土)～7月30日(日)

ハートフルスクエアING

東京都港区 開催時期

8月12日(土)～8月19日(土)

高輪区民センター

※このほか、10の自治体等からの依頼により、継承部会員を派遣しました。



### (3) 調査研究事業

平和・軍縮関係の会議やシンポジウムなどに出席し、情報収集や関係機関との交流をはかりました。

### (4) 育成事業

#### ① 部会活動

市民の幅広い参加を求めながら、会員が市民とともに平和意識の高揚を深めるために活動を行いました。

#### ○ 継承部会

継承事業として被爆体験講話を担当

#### ○ 写真資料調査部会

被爆写真の分類整理を担当

#### ○ 国際交流部会

文書の翻訳、

外国人来訪者の通訳、案内を担当

#### ○ 音楽部会

音楽会の企画を担当

#### ② アジア青年平和交流事業

18年度は、日本の若者とマレーシアの若者が、お互いの国を訪問し、文化・歴史を学び、現地の人々との意見交換や交流を通して学ぶことにより、相互理解を促進し、平和意識の向上を図りました。

(ア) 長崎の青年のマレーシア訪問(平成18年8月5日～10日)

長崎の青年5名がマレーシアを訪問し、マラヤ大学で平和についてのプレゼンテーションを行い、同大学の学生と交流するとともに、同行の松添

継承部会長の被爆体験講話を行いました。また、マラッカ及びクアラルン

プールの日本人墓地を訪問しました。

(イ) マレーシア青年の来崎(平成18年10月20日～24日)

マレーシア青年2名が来崎し、平和公園、原爆資料館、追悼平和祈念館などを見学しました。また、地球市民集会ナガサキ2006の自主企画として、追悼平和祈念館交流ラウンジで日本人青年5名と共に本事業報告会を行いました。



▲クアラルンプールの子も連と交流

#### ③ ボランティア活動支援

平和活動の担い手となる学生ボランティア及び外国語ボランティアガイドの行動支援を行い、平和認識の視点や観点を醸成するための場を提供しました。

#### ④ 平和事業支援費

協会の活動趣旨と致する、音楽会や講演会、シンポジウム及び外国

人弁論大会などの活動を助成し、平和事業を推進しました。

(ア) 「第17回外国人による日本語弁論大会」 共催

(イ) 「ながさき平和大集会」 共催

(ウ) 「第23回長崎平和音楽祭」 共催

(エ) 「第44回原爆忌文芸大会」 賛同

(オ) 「世界の元首へ送る平和の手紙発送事業」 賛同

#### ⑤ 秋月グラント

平成16年度から、被爆の継承や平和意識高揚のための事業を実施する団体等へ助成する制度として、創設者の一人である秋月辰一郎氏の名を冠した同制度を開始しました。

(ア) 第17回IPPNNW世界大会への参加事業

(イ) 青少年による世代間&国際交流事業

#### ⑥ 平和案内人派遣事業

平和案内人を、主に観光客を対象とした碑めぐりや資料館、祈念館等の案内ガイドとして、派遣しました。



▲活躍する平和案内人

## II 受託事業

長崎市や国からの委託を受けて次の事業を行いました。

(1) 長崎原爆資料館観覧料収納業務

及び受付案内業務

※原爆資料館入館者数

18年度

715、792人

(月平均59、649人)

(2) 長崎原爆資料館図書資料整理業務

(3) 少年平和と友情の翼事業

(4) 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業

## III 収益事業

原爆・平和に関する図書や平和意識啓発普及のための物品などの販売を長崎原爆資料館の図書販売コーナーで行いました。



▲「市民のつどい」の屋外行事の様様



# 平和案内人 〜経過情報〜

長崎を訪れた観光客等に、被爆の実相と惨禍を語り、平和の尊さを伝え続けるために発足した平和案内人（第一期生四十九名、第二期生三十六名 計八十五名）も、活動開始から三年目を迎えました。

現在は春の修学旅行シーズンが一段落し、長崎市内小中学校の社会科見学、また個人や一般団体等、県内外からの様々なお客様に原爆資料館や追悼平和祈念館、被爆建造物の案内を行っており、活動も定着しています。

同時に、第三期生の育成講座が行われており、被爆体験講話の聴講や卓逸した先生方による講義を通し、被爆の実相に触れ、平和の尊さを伝えるための心構えを学び、そして先輩である第一、二期生と一緒に原爆資料館や被爆建造物等のガイドのポイントを勉強しています。

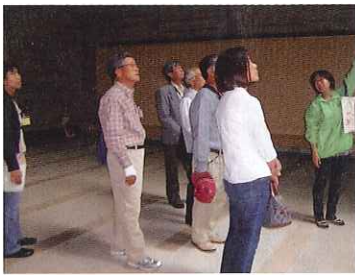
修了式は七月末日に予定されており、二ヶ月間の自主研修期間を経て、十月から「平和案内人」として活動を開始する予定です。

また、そのほかの活動内容も徐々に幅を広げています。

中でも、前年度に開催された継承部会との交流会がきっかけとなり、今年度は継承部会員と平和案内人が協力し、「朗読会」や「紙しばい会」の自主活動グループが誕生しました。

これからますます被爆体験の継承が問題となっていく中で、いかにして後世まで伝え続けていくことができるか、まずは自分達から恒久平和へ向けて取り組もうという姿勢から立ち上がったこのグループに、核兵器廃絶という永遠の願いを強く感じます。

これからますます被爆継承活動を担っていく平和案内人、これからも皆様の温かい応援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 〈7月以降の講座予定〉

第10回	7月7日(土)	碑めぐりガイド見学(2)	平和案内人(6名)
第11回	7月14日(土)	写真で見る原爆投下時の長崎 被爆者対策 ガイドの心得	深堀好敏氏(写真資料調査部会長) 原対部援護課長 平和案内人(1期生)
第12回	7月21日(土)	碑めぐりガイド実習(2) ※必修講座	平和案内人(12名)
第13回	7月31日(火)	被爆体験講話(2) 修了式	奥村アヤ子氏(継承部会員) 横瀬昭幸理事長 多以良光善事務局長 平和案内人担当者



# 祈念館だより

## 第3回 海外原爆展

### スペイン・ケルニカ平和博物館で開催

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

国際協力と交流を館の大きな特長として掲げる、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館は、2005年、国の機関として初めて、海外における原爆展を、アメリカ・イリノイ州シカゴ市にある平和博物館で開催しました。

館長のマクガイア氏は、廃館の危機に直面した博物館を、独自のネットワークと獨創性で年間数千人が訪れる施設に立て直し、館を再生させたバイタリティ溢れる活動は周囲からも評価されました。

昨年開催した米国ネバダ州ラスベガス市にある核実験博物館は、名称の通り、核実験に関する歴史を展示しており、当地での開催は内外のマスコミの注目を浴びました。

館長であるビル・ジョンソン氏の「核に関する事実であればすべて館で受け入れ、公開する用意がある。」という考えのもとに開催はスムーズに運び、連日多くのラスベガス市民が展示室を訪れ爆者の話を聞いてくれました。

長崎追悼平和祈念館において第3回目となる07年の本年は、スペイン・バス

ク州にあるケルニカ平和博物館で、6月27日から9月9日まで開催いたします。

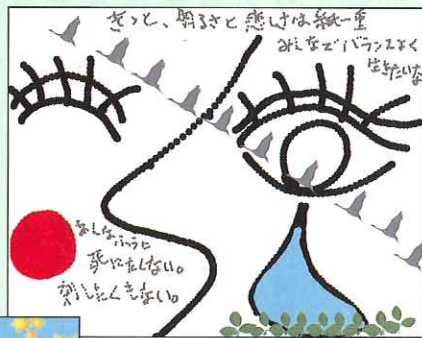
館長はイラッチェ・モモテイオ氏という女性で、学生時代からケルニカの歴史を専攻し、その努力によりケルニカ、ルモ市が市庁舎の一部を改築して作ったケルニカ平和博物館館長として選任されました。

一般的に平和博物館は、兵器や戦車などを展示する戦争博物館などと比べると、「常設展示物」を配置するのが難しく、どの館も来館者に平和を伝えるのに苦慮しています。また、博物館長は来館者に対し、平和を具現化した展示物を常に探し求め、しかも左右におれないようにキャスティングボードを握る必要があるため、平衡感覚を問われる重要な立場にあります。

この原爆展はケルニカ、長崎、広島、の悲劇を繰り返さないための展示です。

祈念館事務局は、ケルニカの地を訪れるヨーロッパ各地の観光客に一人でも多く原爆の悲惨さを理解して頂けるよう、6月27日の開催に向けて準備に余念がありません。

平和の灯を世界中に  
ともしていきましょう



情報コーナー  
メッツセーナジ



## 慰霊碑巡りのお知らせ 継承部会碑めぐり事業班

あの日8月9日、浦上駅にはいつ来るとも知れない救援列車を待つ多くの被災者が殺到しました。

今回の慰霊碑めぐりは、浦上駅にある慰霊碑前から、爆風と熱線で破壊され残骸と化し、多くの学徒動員が犠牲となった三菱製鋼所の工場群と茂里町兵器製作所と跡地を廻り、当時を偲びながら捕虜収容所があった幸町の三菱造船幸町工場付近までを巡ります。どなたでも参加できます。当日集合場所へお越しください。

開催日時 7月29日(日)

午前10時～12時

集合場所 浦上駅(国鉄原爆死没

者慰霊碑前)

参加費 無料・参加は自由です。

案内 継承部会の碑めぐり事業班が行います。

## 会費納入のお願い

当協会は、官民一体となって、平和を維持するための各種事業に取り組んでいます。

皆様が、毎年納入くださる会費が、会報「へいわ」の発行や、「講演会」、「市民のつどい」などあらゆる事業を展開していく中で大きな財源となります。

どうか、会費が協会の活動を大きく支えていることをご理解いただき、今年度まだ納入されていない方は、郵便局でお支払いいただけますようよろしくお願いいたします。

郵便口座番号 018301514286  
財団法人 長崎平和推進協会

## ご寄附ありがとうございました

岡田郁代 (五十万円)

滋賀県日野町立日野中学校 (六千九百五十六円)

中国語平和ボランティア講座

受講者有志 (二千七百円)

鍵本ヨシエ (五万円)

本田貞勝 (二千七百円)

(敬称略)

## 会員数報告

維持会員	1,323名
賛助会員	158名
臨時会員	2名
学生会員	5名
合計	1,488名

平成十九年五月三十一日現在

## 「吉永小百合ーチャリテイ朗読会」に招かれて

去る、6月24日(日)午後2時30分から、東京オペラシティコンサートホールで開催された第2回チャリテイー朗読会「第二楽章ヒロシマ・ナガサキ・沖繩」へ、吉永さんにご招待いただき上京しました。

第一部は、広島と長崎の原爆詩を吉永さんの朗読でー大島ミチル(長崎市出身・作曲家)さんと、弦楽四重奏団の演奏も加わり、一途な平和への願いが込められたステージに、観客の一人としてとどまらず涙を流してしまいました。

思えば吉永さんにご来崎いただいた'97年(市民のつどい)平和会館ホール)以来、'99年夏(第二楽章長崎からCD発売記念)ブリック大ホール)、同12月には(第二楽章長崎からin浦上天主堂)、03当協会の設立20周年と祈念館開館を記念(原爆資料館ホール)した公演と、この10年間に4回の朗読会の制作をさせていただきました。裏方を担うと緊張感が勝り、音楽や演劇でも酔いしれたりする余裕はないものです。

第一部では、ひばり児童合唱団の「花こそは心のいこい」「千羽鶴」(二曲とも作曲は大島ミチルさん)と長崎の作品が紹介され、吉永さんがいつも心されている、次世代に託したいという熱意がコーラスに包まれ、会場に響き渡り

ました。

第二部は、昨年取り組まれた「ウミガメと少年」(野坂昭如/作)の朗読と、夏川りみさんの美しい歌声で「イラヨイ月夜浜」など沖繩戦を題材にしたステージでまとめられました。

3階まである、千六百席は満席となり、いつものことながら、若者から高齢者まで男女を問わない客層に感心させられました。開場前と休憩の短い時間に挨拶をして、長崎へのラブコールもすっかり受けていただくことができ、何よりの収穫でした。

ステージの締めくくりには、当日の収益金から、当ピースウィング長崎(平和推進協会)をはじめ、広島平和祈念資料館やひめゆり記念資料館、日本被団協などに寄付されることも披露されました。

女優として、一日本国民として、ひたむきに反戦・平和を願う姿は、いつも凛とした白百合そのもので、たいへん美しい女性でした。

間もなく吉永さんを迎える準備に入りたいと思います。来春に乞うご期待を。

(音楽部会・つだ けいこ)